

「小さな親切」運動本部賞

ありがとうのじゃがいも

山形県 北部小学校 一年
安部 樹

「ごっつおさまな、おしょうしな。※」

ぼくのとりののおうちにすんでいる、あおきさんのおじいちゃんとおばあちゃんにいわれて、うれしかったことばです。ぼくはそのとき、こころがぼかぼかとしてきました。

ぼくが1年生になった5月に、山のちかくにあるはたけをかしてもらって、ぼくとおとうさんとおかあさん、いもうと、おとうとのかぞくみんなで、じゃがいもをそだてることにしました。はたけをたがやしたり、いちりんしゃでひりょうをはこんだりと、たくさんの力をだしてはたらいて、たねいもを20こ、うえました。

なつやすみの8月、いよいよじゃがいものしゅうかくの日、みんなではやおきをしてはたけにむかいました。さっそく、土の中をさがすと、たくさんのじゃがいもがかくれていました。ほりのこしのないように、むちゅうになって土をかきわけました。手もふくも土だらけ、がんばってほったじゃがいもは、大きなほこに入れて2つぶんになりました。こんなにたくさんしゅうかくできて、おどろきました。

おとうさんが、「とれたてのじゃがいもを、みんなにたべてほしいね。」といったときにぼくは、あおきさんのおじいちゃんとおばあちゃんのかおがおもいうかびました。二人は、ぼくがここにひっこしてきたときから、まい日こえをかけてくれます。

「げんきか、きょうもたのしかったか。」と、おじいちゃん。あついときも雨がふったときも、ぼくがいえをしゅっぱつするじかんになると、わらって「いってらっしゃいね。」と、手をふってみてくれるあばあちゃん。やさしくしてくれるあおきさんのおかげで、ぼくはいつもあんしんしています。

じゃがいもをほってまっすぐに、あおきさんのいえにいて「おじいちゃん、おばあちゃん。」とよびました。いつものありがとうのきもちを、ぼくはじゃがいもにこめてわたしました。あおきさんも、ぼくのかぞくも、みんなにこにこわらっていました。ぼくはちょっとてれくさかったけれど、いっぱいあせをかいてつくったじゃがいもを、よろこんでもらえてほんとうにうれしかったです。

ぼくは、なつやすみにおひっこしをすることになりました。「さみしくなるなあ。」と、あおきさんがいいました。ぼくのこころもおなじきもちでした。じゃがいものはたけには、だいこんのたねをまきました。だいこんが大きくそだつころ、ぼくのげんきなところをみせに、あおきさんにあいにいきたいです。それがぼくのたのしみです。

※山形の方言で「ごちそうさま、ありがとう。」